

総評

今期、建設業は公共工事や貸家用の需要により横ばい傾向にとどまったが、深刻な人手不足を訴える声が多い。製造業は、鋳物や食品関連の一部で好調な動きはあるものの、農業機械分野は国内市場向けを中心に減退が続いている。卸売業は、輸送費のコストアップや日用品の引き合いが減少となったものの、農畜産水産物関連は天候の安定に伴い改善傾向が見られた。小売業は、消費者の買い控えの影響が根強く、力強さを欠いている。サービス業は、忘年会需要の恩恵を受ける飲食店や、秋の行楽シーズンで観光需要を迎えた宿泊業を中心に堅調な動きが見受けられるものの、消費者の生活防衛意識も高く、生活関連業種は伸び悩んでいる。原材料価格に対する価格転嫁は一部で進捗がみられるものの、頻繁な価格改定ができない業種業態も多い。また深刻な人手不足と最低賃金の上昇などにより、賃上げ等を行っているものの労務費への転嫁が追い付いていない。来期は、年始の初売りや次年度の準備に向けた消費拡大への期待はあるものの、観光需要の閑散期に入ることや天候不順に対する不安も根強い。価格転嫁による賃上げ原資の確保、人手不足による機会損失などへの対応課題も多い。また、燃料油価格激変緩和補助金の縮小等に伴う輸送コストの増加も懸念される。

		前期状況 (7~9月期)	今期状況 (10~12月期)	来期見通し (1~3月期)	調査事業所のコメント
建設業		➡	➡	➡	今期は、公共投資請負額・住宅着工件数ともに期間中に波がみられたものの総じて横ばいの動きとなった。生コン等をはじめとする建設資材の高止まりや労務単価、人件費の高騰等による収益圧迫を招く要因が山積している。若年就業者の減少、現場の急速な高齢化・後継者不在等の構造が常態化している。 来期は、2025年4月に迫る建築基準法改正への対応、年度末を迎える公共需要はもとより、民間需要にも期待する。
製造業		➡	➡	➡	今期は、原材料価格の高騰、人件費の増大等経費の増加による苦境が続くものの、原材料部分の転嫁は出来ても人件費分まで価格転嫁することは困難な状況である。 来期は、業種による格差はあるものの需要が停滞傾向にある中、市場ニーズの変化への対応等業態改革が求められる。
卸売業		➡	➡	➡	今期は、輸送費の高騰等や円安基調によるコスト増に加え、消費者の購買意欲の低下から日用品や飲食品の引き合い減少は継続しているものの、今夏以降の天候の安定に伴う農畜産水産物関係の前期からの反動回復で、改善傾向にある。 来期は、安定した農畜産水産物の収穫量・流通量となること、円安基調から脱し、望ましいレートに復調することを期待したい。
小	衣料品	⬇	➡	➡	今期は、この時期では珍しく夏日を記録するなど秋物衣料の動きが鈍かった。合わせて物価高の影響から来店客も減少した。また、卸売業の廃業が続き、メーカーからの直接買い付けが必要になるため、1年前から生産発注が必要になるなど業界全体の環境が変わりつつあり、それに対応できない衣料品店は厳しい。 来期は、本格的な冬を迎え、冬物のジャケットやパンツ等の動きが良くなることが期待される。ただ、ファストファッション化による購入単価も減少することも踏まえ、大手チェーンとの差別化を図り、来期の売上増につなげていくことが期待される。
	家電	➡	➡	➡	今期は、10月は残暑だったものの、11月、12月は気温が低下し、エアコンなど暖房器具は動きが良くなった。しかしながら、電気料金をはじめ物価高が続いていることから消費マインドは依然として低い。 来期は、暖房器具や省エネ商品への買替需要の動きに期待したい。
売	自動車	➡	➡	➡	今期は、半導体不足の解消で、電気自動車EVを含む新車全体の販売台数は総じて微増したが、EVに限ると伸び率は鈍化し、上半期は堅調だったが下半期から減速感が出ている。一方で、ディーゼル車・ハイブリッド車(HV)など手ごろな価格で省エネ性能も高い車種は引き続き堅調に推移している。軽乗用車の人気も根強い。 来期は、決算期を迎え低燃費車・EV車への乗り換えや、堅調なコンパクトカー需要、新型車投入に期待。
	スーパー	➡	➡	➡	今期は、値上げによる売上プラスは継続しているものの、野菜や果物などの生鮮食品が、天候による不作や収穫量の低下、輸送コストの増加のため価格が高騰。消費者の実質賃金の伸び悩みに伴う買い控えも一部ではみられている。原価だけでなく、水道光熱費、人件費等の上昇により全体的にコストアップしていることや、人手不足や賃上げ等の課題もある。 来期は、野菜を中心として今期を上回る価格高騰が予想されており、さらなる買い控えも懸念される。
	特産品	➡	➡	➡	今期は、行楽シーズンを迎え前期並みの土産品需要はあったものの、歳暮需要などは昨年市内百貨店が閉店し、県外の百貨店に流出するなどしたため売上は横ばい傾向であった。 来期は、閑散期でもあることから人の移動も少なく、需要増の期待は薄いが、春先の物産販売施設のリニューアルオープンに期待。
サービス業	飲食	➡	➡	➡	今期は、前期と比べ売上が増加したと回答があったところが多かったが、仕入単価の上昇や最低賃金の上昇、人手不足により相殺されている状況。一方で、県外の方が来店された際、地元の魅力や再訪してもらえるような接客ができる従業員を増やしていきたいとの声も見られた。 来期は、大雪などの異常気象による売上の減少が懸念される。
	旅館・ホテル	➡	➡	➡	今期は、出雲大社の神迎祭などの影響で好調に推移。首都圏のインバウンド旅行者増加による日本人旅行者が地方観光地を選ぶ傾向も見受けられる 来期は、閑散期に入るため観光客の減少が懸念される。松江城天守国宝指定10周年記念事業の機運醸成に期待したい。
	運輸・旅客	➡	➡	⬇	今期は、出荷量が多かったこともあり輸送需要の回復の兆しが見られた。一方で度重なる燃料費、人件費の高騰が続く中、今期から政府の燃料補助縮小により業界を取り巻く環境は厳しさを増している。夏場にあった大雨により出荷量が落ち込んだところも見受けられた。 来期は、出荷状況が不透明であり、先行きに不安がある。また、天候などの悪化による輸送能力の低下、モノの流れの停滞が懸念される。

売上の前年同期比について ➡ ➡ ➡ により表示しています。